


活動プログラム	No.27 キャンドルサービス		
期待される効果	 コミュニケーション		
プログラム概要	ろうそくの火を囲んで、それぞれの想いを語り合ったり、歌を歌ったり、思い出をふりかえる時間を持ちます。スタント等仲間と協力して一つのモノを作り上げる喜びを知り、原始的で素朴な自然である火が持つ神秘的な魅力を感じることができます。		
対象	誰でも	人数	大研修室 100人程度・中研修室 40人程度 多目的ホール 200人程度
時期	通年	場所	大研修室・中研修室 多目的ホール
金額	教材申込書参照	大人の人数	40人に1人程度

準備物	団体ごと	救急バッグ、ライター、スタント出し物などで使用するもの
	服装 個人装備	寒くないように季節に合わせてください
美方高原で購入 レンタル可能な物		燭台、燭台用シート、個人用ろうそくカップ

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
18:30	ミーティングスペース集合	人数に対して会場が狭くならないよう注意
18:40	諸注意 入場	
18:50	点火	
19:00	スタントなど	火に近づきすぎない様注意
20:00	分火	熱い蠟が垂れないように、火をもらう側がろうそくを傾けてもらいに行く
20:10	活動のふりかえり	
20:20	退場	

補足ポイント

- 燭台やろうそくの事前準備が必要です。事務局にお声かけください。
- 終了後は確実に消化し、燃え残りのろうそくは燃えるごみとして処理してください。
燭台シートやカップなどは元の場所へ戻し、その他レンタル品は事務局までご返却ください。
- 会場内にゴミが落ちていれば清掃をし、窓の施錠・エアコンのOFF・照明のOFFをして片付け終了の旨を事務局までご連絡ください。

活動 プログラム	No.27	キャンドルサービス
-------------	-------	-----------

予期されるリスク	リスクに対する対応
燭台の転倒	近づきすぎないように注意喚起する。
火や蠟による火傷	ろうそくの持ち方や分火の仕方を説明する。
多目的ホールでの冷え	夏以外は冷え込むことを見越して上着を持たせる。
ケガ、体調不良	救急バッグを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
指導者のスキルや経験の聞き取りをしたか。
会場が使用可能な状態か。
燭台、蠟燭、カップ、シート、アンプなど販売・レンタル品の準備をしたか。
片付けの方法について説明したか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物(燭台やカップ)は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
火のついた燭台に近づきすぎない様注意
ろうそくを持つときはふざけたりしないよう、持ち方や分火方法をレクチャーする
周囲が暗いため、走ったり人を押したりしない様伝える
多目的ホールは想像以上に冷えるため、服装に注意する